

祝辞

法政大学総長

田中優子

皆さん、ご入学おめでとうございます。今年の入学式は縮小しておこなうことになりましたが、入学は皆さんひとりひとりにとってとても大切な、新しい日々の始まりです。ぜひ新鮮な気持ちで、これからの3年間、より広い地平に出て視野をひろげてください。皆さんの前には、新たな世界が開かれています。

法政大学のホームページの中に、HOSEI ONLINE という、私の対談コーナーがあります。今そのコーナーには、法政大学文学部の卒業生、山船晃太郎（やまふね・こうたろう）さんとの対談が掲載されています。山船さんから生徒、学生の皆さんにメッセージがありました。それは、「時間を忘れて打ち込めるくらい、夢中になれることを見つけてほしい」というメッセージです。

山船さんは法政大学野球部の選手でした。その在学中に水中考古学という新しい学問に出会い、その分野への好奇心が抑えられず、卒業後は猛勉強してアメリカの大学院に入り、博士号をとりました。大学院入学前の勉強は「今思い出すだけでも吐いてしまうほど大変」な毎日だったそうで、入学後は1時間半の授業のノートを作るのに15時間かかったそうです。それでも「とても楽しかった」と語っておられました。

学校はこのような「大変でも楽しい」という充実感を得るためにあるのです。皆さんも在学中、さまざまなことにまなざしを向けてみて下さい。「とても大変。でも楽しい。」と感じられるものは何か、探して下さい。向こうから自然に楽しいことがやってくるわけではありません。読書を通して、実践を通して、対話を通して、探して下さい。未来はその延長線上にあります。

法政大学は「自由を生き抜く実践知」というタイトルの憲章を掲げています。自由とは、あらかじめ用意されているものではなく、獲得するものです。自由を生き抜くには、周囲の大人や先生や友人たちと対話しながら、「私ならどう生きるか」を問い続け、自分自身の考え方もつことが必要です。

これからのものびのびと、「大変で楽しいこと」を探しつつ、自由を生き抜いていってください。改めて、入学おめでとう。